1969
10月号
No.191
編集兼発行
鮫川村
総務課
塙町 佐藤印刷所

広報 さめがわ

10月の人口と世帯
人口 6.961(+12)
男 3.497(+6)
女 3.464(+6)
世帯数1.234(+2)

盛会だった第一回スポーツ大会

渡瀬バレーで圧倒的な強さ!!

…ソフトは中野・駅伝は西山が優勝…

第一回鮫川村スポーツ大会は、国民体育の日の十月十日鮫川小学校を中心として四会場、三種目にわたつて熱戦がくりひろげられました。壮年ソフトボールは十六チーム二百五名、家庭バレーボールは十三チーム百五十名、駅伝競走は七チーム七十七名、合せて三十六チーム四百三十二名の選手が、忙しい仕事の余暇に励んでは身につけた技倆と闘魂をぶつつけあつた結果、壮年ソフトボールでは中野Bチームが西野Bチームを十四対三日没四回コールド、家庭バレーボールでは、今夏県体県南大会に出場経験のある渡瀬Aチームが中野Cチームを二対〇で破り、また、駅伝競走では西山チームが、二位中野チームに一分十六秒の差をつけてそれぞれ第一回目優勝の栄誉をかちとりました。なお、この模様はNHKテレビで、同日の午後七時と九時の二回にわたり放映されました。



東白川地方各町村消防団の精鋭1千余名が連合検閲のため鮫小校庭に集合。壇の岡に向つて堂々の行進を開始しました。

火災多発期に入る

いよいよ寒さも近づき、火災の発生しやすい季節になりました。コタツや風呂場の火、石油ストーブ、プロパンガスの取扱いには十分注意して下さい。

特に人の出入りの多い官公庁や学校などのストーブの取扱い、夜間の見廻りに十分注意して下さい。

宿直の居ない、無人化の学校が多くなりました。退勤するときは、火気(ストーブ類、電気、灰皿等)や戸締りの安全を必ず確認して下さい。

もう一度確めよう 火の用心

『秋の交通安全運動旬間』を終って

十月六日から十五日までの十日間に亘り、秋の交通安全旬間として、全国から交通事故を追放しようという運動が展開されました。

しかし残念ながら、この期間中、飲酒運転による事故等全国で一九、三二二件の事故が発生しました。本村では交通対策協議会と交通安全協会鮫川支部及び各種団体の協力により、交通安全パレード、法令講習会や広報活動により交通安全の啓蒙を行ないました。

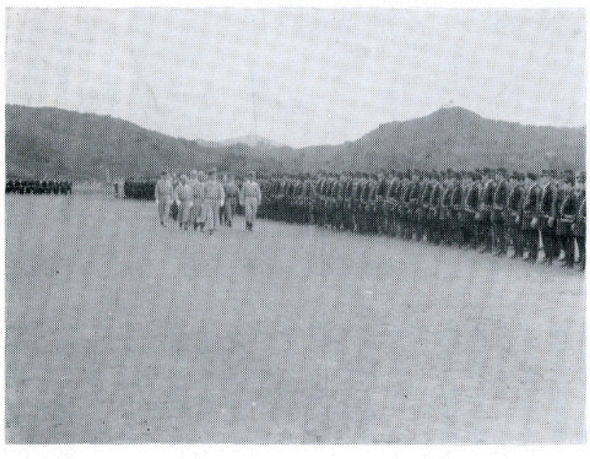
特に交通安全協会鮫川支部の役員の方々は、毎朝街頭に立つて、安全な歩行、正しい横断、自転車の乗り方等について親切な指導を行い、村民から感謝されました。

なお、安全運動実施期間中村内で、子供のとび出しとバイクによる事故が一件ありました。

このような事故は、道路へのとび出しが非常に危険であることをよく教え、保護者も運転者も常に注意していれば防げる筈のものですから十分注意しましょう。

交通事故は他人ごとでなくあすは我が身に起り得る可能性があります。

一寸した不注意が大きな事故を招くので、歩行者も運転者も交通ルールを守り、お互に注意して事故を絶対防ぎましょう。



この日秋空よく晴れ、阿武隈の山なみに秋はたけなわ。広い村民運動場で厳正な規律の中にも心豊かな検閲が行われました。

人事

教育長 水野 義包(再任)

去る十月一日、議会の同意を得て教育委員に再任された水野教育委員は、十月二日に開催された教育委員会において教育長に互選(四選)されました。

教育委員長 中川西金之助

任期満了により、緑川操教育委員長が退任し、中川西金之助氏が教育委員長に互選されました。

おめでた

九月
二反田 松本 正和父寿郎
内ケ竜 鏑木 良秋〃正昭
官代 前田 静穂〃三郎
新宿 鈴木 順子〃和光
十月
宝木 水野 民男父茂男
蕨ノ草 鈴木久美子〃作衛

おくやみ

九月
下木之内弘次 42 タマ子 世帯主
十月
鍬木田 松本 義近 77 一郎
新宿 水野 ヒサ 73 コト
前田 加藤 テル 87 豊太
青生野 高坂 イノ 82 七朗 信男

螢光灯を贈る

中野青年会の美挙

中野青年会(会長 鈴木重隆)は、最近の青年に、社会奉仕の意識が失われつつあるのを惜しみ、今年度の活動方針の中に、社会奉仕活動をとり入れていましたが、このほど、事業収益金で、中野区公民館に螢光灯三基を寄贈すると共に、十月十日行なわれた第一回村スポーツ大会で大活躍した区代表の壮年ソフトボールチーム(四チーム)と家庭バレーボールチーム(三チーム)にボール各々二個と各チーム一個ずつを贈り、区民の好感をあつめています。



スポーツ大会で人気を集めた家庭バレーボール競技の熱戦ぶり。家族をあげての応援がものすごい。

高令者国民年金
再開の途ひらく

国民年金制度は今年の十一月で十周年を迎えます。この十年間に多くの人々の努力と協力により現在では全国で約二千二百万人が加入しております。わが村でも八月末日現在では二千五百三十七人が年金に加入しております。

その中で高令者任意加入者は二百三十一名ですが、今後法律改正（本年十二月改正予定）により高令者任意加入の再開で、加入出来る人の数は八月末日現在の調べでは約百六十一名あります。

◎高令者任意加入者とは

明治三十九年四月二日から明治四十四年四月一日までの間に生れた人で、昭和三十六年に任意加入しなかった人（現在公的年金制度に加入している人は除く）は、昭和四十五年一月一日から六月三十日までに村役場を経て県知事に申し出て一ヶ月につき七百五十円を五年間納めると年額三万円（月額二千五百円）の年金が受けられることになります。

また高令者の任意加入者であった人が、途中でかけ金を納めなくなった人でも昭和四十五年七月一日より九月三十日までに村役場を経て県知事に申し出ることにより、継続することが出来ます。

保険料の納入金額が、異なりますが、昭和三十六年四月以降一ヶ月四百五十円のかけ金を納めると年に六万円（月額五千円）の年金を受けることが出来ます。

また以前にかけ金を免除承認された方でも現在かけ金を納めている力は免除された期間分のかけ金を追納することができます。これはかけ金の納入済期間と免除期間とを合せてどちらの期間が多いかによって将来みなさんの受けるねん金額が決まるからです。



こうなつつては、もう遅い!!無謀運転をやめましょう。

おはなしの広み (30)
今年の稲作と農政審答申

村長　石田卯子八

全国的には今年も豊作で、米の収穫は史上第三位といわれていますが、阿武限山系高冷地の稲作は昨年に続いて冷害の色が濃くなりました

冷害が二年続いたことは過去にも幾度かあり、技術が進んだといわれる現在まことに残念なことであります。

今年の稲作期間中の気象の推移をみると、苗代期は昨年や平年よりも高温多照でしたが、五月末から六月上旬にかけて気温の上昇が緩慢となり、入梅がおくれて来て、長く居据ったかたちになりました。

この降雨低温は七月半に及び、稲の生育をおくらせその後の気温の上昇で或程度もち直したものの、かえって栄養成長が長く続き、遅延型冷害の一因を作りました。

八月に入ってからの気温は昨年よりやや低く、旬間平均気温が二四℃を越えず、しかも肝腎な八月なかばに最低気温が一二℃にも降り、九月になってから平年の平均気温をいくらか越える日があつても稲の成熟に及ぼす好影響を期待することができませんでした。

このため標高六五〇m程度以上の高冷地や冷水灌漑地には青立現象が目立ち、多肥栽培地には穂イモチが急速に拡がりました。

それに八月二三日の台風九号がこれに拍車をかけ、このとき出穂開花中のチョウカイなどの品種が風害と冷害の二重打撃をうけ、決定的な被害を蒙ったわけであります。

現在は昔のようなお天気まかせの稲作ではないにしてもまだまだ気象条件を十分に克服するまでに、技術が進んだとはいえないことを痛感させられます。

時、たまたま農政審議会は米の構造的過剰を解消することを主眼として、米の需給調整に関する具体案を政府に答申して話題をまいております

これによると、米の生産を抑制するために

①他作物への転換や休耕を奨励する。

②買入れ価格を引下げる。

③政府買入れを制限する。

などの施策を総合的に実施するというショッキングな意見であります。

この答申は、もとより直ちに政府の施策となるものではないが、これまで苦労を重ねてきた米作者、米作地帯を無視するも甚だしく、米を増産したものが罪悪であるかのような印象を与えかねない考え方には、強く反発せざるを得ないのであります。

答申は、食糧の安定的供給のために、畜産物、飼料作物園芸作物などを中心に増強をはからなければならないともいっていますが、そのこと自体に誤りはないとはいえ、農業生産が工場内の機械的量産のようにいくものでないことを心しなければなりません。

この際、むしろ

①米の新しい用途の開発

②米作担当地域の設定

③米の輸入廃止

などの施策に全力をあげ、近代的な新しい安全、省力、多収の稲作技術を開発することこそ最も緊要であると思うのであります。

鮫川史 (13)
小見川代官所と紅岩金山

国島義広

松平周防守康爵が、天保七申年九月二十七日石州浜田より棚倉城に六万四百石で移封さる時に、赤坂郷十五ヶ村計八千石は棚倉領をはなれて、千葉小見川藩一万石内田豊後守豊録の領となる。

天保九年今より百四十年前中野村に代官所を置くに当り各村々封内の名主を集め役所の所在地を抽籤にて決めた。中野村名主吉兵工は其の籤に当り中野村に置く。（吉兵工は湯坐二衛氏七代前の祖先で文化三年八月十一日没、寿宝永禅信士とある）。代官所は隆宝院（寺院で今の角田元甫氏宅）に置き、牢屋は西側の川辺に、役人詰所と倉庫は現在通称役屋敷と云つて、寺院の東側の台地に置いた。

代官として関市左ェ門と利木利右ェ門が之に当り、属官役人として桶口善兵工、岡部兵蔵、松井八郎の五人が駐在し、其の掌に当る。当時初代の代官関市左ェ門の手記を掲げて参考に供する。

日記抄

天保九年中野村に代官所を置く、村々封内の名主を集め其の場所を決める。中野吉兵工が籤を当て中野村と定める

封内十五ヶ村とは渡瀬村、東野村、石井草村、中野村、真坂村、宝木村、戸倉村、塚本村、西野村、石神村、論田村、大久田村、山上村、田口村、仙石村の計十五ヶ村八千石である。（富田村は将軍天領鎌田村は棚倉主領）

天保九年戊五月二十日引継ぐ即日赴任す。代官関市左ェ門母堂は天保十一年庚子正月八日死亡玉山妙泉信女、内田の臣として中野、長遠寺に葬る。渡瀬紅岩金山年産千四百貫余（原鉱石ならむ）有之、天保九年十二月二十日より、弘化三年八月十三日まで在所七ヶ年にして代官所を仙石村に移す。八月十九日中野役所引払い、牢屋、土蔵、役人詰所を取こわし仙石村に運ぶ（以上原文のまゝ抜萃）

代官所を仙石村に移す事は勿論であるが、理由とする処は年財米を海路磐城港より、小見川の銚子港へ運ぶに便なる地を選んだのである。なお金坑は現在まで何処に在るか不明であつたので、これを探知するに苦労した。

偶々芳賀洋郎君の妻君花恵さんに、去る八月二十七日奇しくも役場の村長室にて会い江竜田に紅石平なる地のあるを聞えたので、明けて二十八日金沢教育次長同伴、再調をしてこれを確め得た。旧鉱坑は大方埋もれ、現在一坑が完全なる姿で保たれてをり、測定の結果、坑道延長は八十米に及ぶことを知つた。また此の廃坑には無数の蝙蝠の越冬することも地元民から教えられた。尚ほ左の如き導標を現地に建てる事にした。

史跡　江戸時代小見川藩
紅岩金山の跡
是より五百米先徒歩五分
鮫川村教育委員会


紅岩金山廃坑跡　（江竜田地内）

× × ×

因に、明治二十八年赤坂儀作氏が、此の地に銀鉱の試堀願を出して試堀したが、金銀その他何の含有もなかつたと云う説を聞いた。堀り尽して廃坑となつたものか。？



議会だより

各委員・消防団員の報酬改正
教育委員に水野氏再任

第十一回定例会は九月二十九日に招集され、会期を三日間とし次の八件の議案が慎重に審議され、十月一日にいずれも原案どおり認定、可決同意されました。

◉議案第四十号　昭和四十三年度鮫川村一般会計才入才出決算認定について
才入総額二億一千一百八十七万八千五百九十一円、才出総額二億二百六十万三千八百六十四円で、差引残額九百二十七万四千七百二十七円（うち二百五万七千四百七十円は渡瀬小学校建築費の繰越額）は、四十四年度に繰越されました。

◉議案第四十一号　特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
教育委員、選管委員、農業委員、公民館長等の報酬が約一五％引上げられました。

◉議案第四十二号　鮫川村消防団設置等に関する条例の一部を改正する条例
消防団員の報酬が団長から団員まで二〇％余、出場手当二〇％、消防ポンプ係員の手当三〇％前後それぞれ引上げられました。

◉議案第四十三号　職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
村職員の給料表が村独自であつたものを、県の標準額に改正されたものです。

◉議案第四十四号　鮫川村職員定数条例の一部を改正する条例
職員定数のなかで吏員を増し、その他の職員を減らしたが総数には変りありません。

◉議案第四十五号　昭和四十四年度鮫川村一般会計補正予算（第五号）
地方交付税七五四千円、繰越金一、二五七千円等、二、〇四五千円の財源で、村職員の給料再計算による人件費九二〇千円、富田小西山小の火災報知機設置工事費一五〇千円、西山小の水道施設工事費三三〇千円、青生野中教員宿舎修繕工事補助金一〇〇千円等が補正されました。

◉議案第四十六号　昭和四十四年度鮫川村国民健康保険特別会計補正予算（第一号）
事業関係で繰越金五三五千円、直営診療所関係で繰越金二三五千円の財源により、職員の給料再計算により八六千円（事業）、一三一千円（直診）が補正増になり、残額は予備費に繰入れられました。

◉議案第四十七号　教育委員会委員の任命について
任期満了による委員一名の任命は、村長提案の大字西山字宝木の水野義包氏の再任に同意しました。

グループ紹介 (5)

『高砂会』

（渡瀬・江竜田）

江竜田部落は鮫川村の最南端で塙町に近く、戸数二十三戸、人口百余名の小部落でございます。

グループが発足したのは、昭和三十三年の七月からです。活動のはじまりは、生活改善推進員が村で勉強したことを、部落の人に指導してもらいたいという会員の要望からでした。それからは毎月婦人会の部落役員がお世話をして、グループの会合を開くようになりました。

学習の内容は、当時作業用エプロン等は市販されていませんでしたので、生地を共同購入して推進員に教わつて、皆んなで縫いました。お年寄りにも造つてあげ大変よろこばれ、グループ活動をはじめてから、家庭も部落も仲良くくらせるようになりました。

なにしろ現在のように生活用品も出廻つておりませんでしたので、農作業等には不自由でした。そこで教わつた防水加工雨具なども造つてみました。山着に防水加工したもので、完全に水がもれないとはいわれませんでしたが藁蓑よりはましでした。

次々と推進員の方が替わつて、お料理とか、社会教育のお話しとか、大変勉強になりました。見聞を広めるため、また会員の親和のため、骨休めをかね、温泉などにも行きました。農協の生活指導員の方に編物なども教えて載き、ショオールや足袋カバー等、小さな物から編みはじめました。現在はお互に研究して大物まで編めるようになりました。編物は冬期間の楽しみです。

それから昭和四十三年に貯蓄実践地区に指定されましたので、そのため一層グループ活動に意欲を持ち、家計簿の記帳をはじめました。

現在は全会員が記帳しており、それには算盤が必要なので、ソロバンも村の学級で指導されましたので大変役に立ち立派に集計しています。又目的達成のために貯金をするようになり、お蔭様で太陽ヒーターを購入出来ました。とても便利です。又四、五年前より農繁期に共同作業をはじめました。去年より農家の台所を借りて、ささやかに共同炊事をはじめましたところ、村長さんに「施設を作つて衛生的にやつては……」と云われ、施設を設置することに踏み切りました。それには沢山のお金が必要なので村をはじめ、農協、普及所には大変お世話になりました。今年の秋から新しい合理的な共同炊事を実施することができました。

また昭和四十三年度の納税表彰式には江竜田グループを表彰して載けることになり、その折りに江竜田グループでなくもつと適切な名称がないかと云われ、みんなで考えました。江竜田の公園は現在児童遊園地になつており、その片隅に年老いた二本の松があり、部落では高砂の松と昔から呼んでいるところから高砂グループと名づけました。松の名をけがさないように末永く続けてゆきたいと思います。

グループ会員の寺島ハツノさんは、福島県と県貯蓄推進委員会主催の「わが家の家計簿」体験談募集に応募して、県下で七名の一人に入選しました。

高砂グループ活動の内容がもらさず書かれております。又会員の芳賀花恵さんも本年喜多方市で開催された県の推進員大会で特別に功労者として表彰されました。これも会員及び各家庭の協力の賜と感謝しております。

生活改善グループは、他町村でも少くないようです。過般普及所主催で生活改善グループ協議会が結成されましたが江竜田代表の芳賀キヨノさんが郡の副会長に選ばれて活躍されてゐます。

今後ともに皆様の御指導をお願い致します。

（会長　芳賀喜代）



「高砂会」会員の楽しい旅行の集い

一九七〇年 世界農林業センサス

昭和四十五年二月一日現在で世界農林業センサスを実施することになりました。

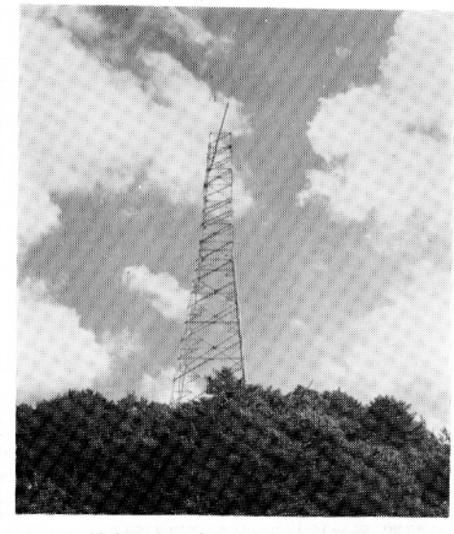
この調査は国際条約に加盟する百余ケ国が参加して一斉に実施するもので、世界の農林業生産を安定発展させるため、比較のできる基礎的資料を作成するのを目的としております。

またもう一の目的はわが国の農林業の実態を正しく把握して農政の進路を定め、農業生産力の発展と農民生活の安定向上を図り、諸農林業施策の樹立に必要な基礎的資料の整備を行なうことにあります

本村では事前調査及び本調査を行うため次の方々を調査員に推せんしましたので協力下さるようおねがいします。

◎調査員氏名

西山　関根功男、関根乙夫、鈴木輝男、阿久津作次
西野　阿久津国市、矢吹一二
舟木仁、斉藤近、石井利男
中野　水野芳光、鈴木市治、
鈴木市悠
東石　中川西正一、宗田貞治
森　亨、鈴木孝雄、渡辺朗、三瓶寛
富田　青戸孝夫、松本源一、
石井清重郎、松本好雄
渡瀬　赤坂基、蛭田勲平、芳賀寛一、国井善郎
藤田一朗
青生野　長井久男、鈴木清司



越虫地内に建設中の原子力発電高圧送電用鉄塔、高さ約75m

※※※

成人者のお知らせ

昭和二十四年四月二日から二十五年四月一日までに生れた方が、明年一月十五日に行われる成人式に参加される該当者（住民登録による次の方々）です。式は公民館で行ないますが招待状は年賀ハガキをもつて通知します。

転出されたかたで郷里で成人式に参加されたい方は十二月二十日までに公民館事務局に申しこんで下さい。

大字赤坂西野（十九名）
武川始、須藤陽子、須藤とも子、生田目太一、矢吹正二、北条ヤス子、矢吹勉、阿久津孝子、高坂修一、高坂栄一、星富男、増谷三郎、坂本トシエ、江田美代子、佐藤松男、佐藤信夫、藤元三男、舟木辰雄、舟木栄子

大字西山（二十一名）
鈴木則男、根本千代子、本郷りつ子、我妻一、緑川友恵、緑川富美子、高木ハナ子、関根英也、石井美智子、阿久津好枝、阿久津花江、阿久津順一、根本次子、水野昌、本郷チヨ子、関根トミエ、大竹徹我妻広、須藤良孝、本郷いく子、植村春男

大字赤坂中野（二十名）
高木繁、鈴木静穂、鈴木春枝、大河内光子、橋本好美、円井一良、安藤幸子、大楽三枝、山本さち子、矢吹優、矢吹広雄、鏑木ミツ、矢吹てい子、湯座三代子、小松愛子、大池敏夫、小松利幸、大池久美子、矢吹末子、金沢一四

大字赤坂東野（二十四名）
宗田末夫、中沢富雄、岡部千恵子、石井キミ子、鈴木ハルエ、関根富夫、芳賀喜久代、本郷マサエ、三瓶のぶ子、鈴木次男、吉田アサ子、宗田貞雄、宗田ツメ子、前田信子、前田紀、田子一吉、中川西英美子、中川西正夫、中川西隆男、前田俊男、芳賀いみ子、溝井正由、中川西孝子、蛭田春夫

大字富田（八名）
円谷千代、根本幸一、青戸正吉、宗田ツヤ子、鷲野谷昇、松本一生、松本アキ子、鈴木里子

大字渡瀬（十六名）
赤坂元子、山形ミチエ、山形敏、山形一雄、一ノ瀬勝美、国井幸子、国井文夫、蛭田守蛭田啓次、木之内さと子、芳賀玉恵、蛭田則子、小松次男小松とよ子、長谷川かね子、芳賀義明

大字青生野（十名）
藤田剛、本多勉、森田ミナ子斉藤義登、森田守、山形ハツ三瓶ナミ子、生田目アヤ子、星美代子、山形ミサ子

感想文募集

成人になつて感じたことを四百字詰原稿用紙三枚以内にまとめて、四十四年十二月二十日まで公民館事務局に届けて下さい。

応募者全員に記念品を差し上げます。

季節学級生の募集

今年も村内の働く農業青年女子を対象として、左記により季節学級生を募集します。

希望者は十一月二十日までに公民館事務局まで申しこんで下さい。

記

一、資格……村内青年女子
二、場所……鮫川村青年研修所
三、期間……昭和四十四年十二月一日～昭和四十五年三月三十一日
四、学習内容……主として和裁一般教養、月一～二回勤労青年学園生との共同学習
五、その他……学級生研修旅行などの計画があります。

十一月十二日は畜産共進会

鮫川村の畜産共進会は本年で第二十二回となり畜産振興の気運を高め、畜産農家の関心も強まり年々盛況が期待されます。

今年は次の計画で実施されますから参加して下さい。近く係員が農家の皆さんのお宅に勧誘に参りますので、ぜひ出陳して下さるようお願いします。

記

一、期日　十一月十二日午前九時より
二、場所　鮫川村畜産センター
三、出陳対象家畜及び規格
㈠乳用牛
第一部　一二ケ月以上一八ケ月未満
第二部　一八ケ月以上三〇ケ月未満の未経産牛
第三部　経産牛
㈡肉用牛
第一部　一二ケ月以上一八ケ月未満
第二部　一八ケ月未満
第三部　一八ケ月以上三〇ケ月未満の未経産牛
経産牛
四、出陳点数及び褒賞点数
いずれも出陳者において三ケ月以上飼育しているもの
五、審査員　白河家畜保健衛生所長　外九名

種別	部別	優等	一等	二等	三等	計
牛 乳用	第一部	一	一	二	六	一〇
	第二部	一	一	二	六	一〇
	第三部	一	一	二	六	一〇
	小計	三	三	六	八	三〇
牛 肉用	第一部	一	一	二	六	一〇
	第二部	一	一	二	六	一〇
	第三部	一	一	二	六	一〇
	小計	三	三	六	一八	三〇
計		六	六	一二	二六	六〇

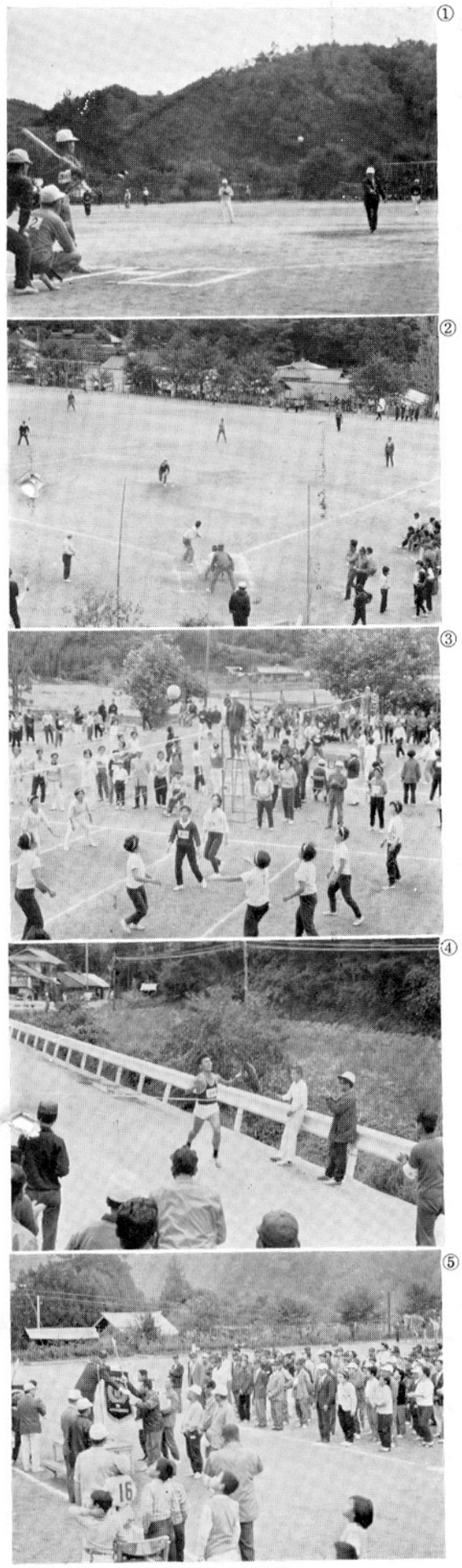
文化の日を中心に各種展示会を開催

菊花の香り高い十一月三日の文化の日を中心に、美術等愛好者団体の主催で、村、公民館等の協力後援により、左記のとおり実施いたします。

村内多数の同好者の出陳協力をお願い致します。

記

一、とき　十一月五日六日
二、ところ　鮫川村公民館
三、種目
1.菊花展　2.盆栽展　3.盆石展　4.木根ッ子展　5.名刀展　6.絵画展　7.古文書展　8.民俗資料展



スポーツ大会の盛況　① 石田村長の始球、② 技倆も一段と上つた壮年ソフトボール、③ 家族ぐるみのにぎやかな家庭バレーボール、④ 大会の花形駅伝選手ゴールに入る、⑤ 暮色の中で行われた終了式